国語科「現代文 B」授業実践紹介

授業者：荒金　恭子
学　年：３年
単元名：「恕」～愛～について考えよう

単元のねらい（７つのチカラ：　考える力　コミュニケーション力　自立する力）

○読み取ったことをもとに作者のものの見方や考え方を通じて、人間や自身の生き方についての考えを深めることができる。（読む能力）７つのチカラ：考える力　コミュニケーション力

○自分が「恕」についてできることを提案する。（関心・意欲・態度）７つのチカラ：自立する力

単元の流れとパフォーマンス課題

Ⅰ　パフォーマンス課題を提示し、単元の見通しと評価を共有し、現段階の自分の考えを書く。（１時間）

自分にとって恕～愛～とはどういうものか説明してみよう。
自分が恕～愛～の人としてできることを宣言しよう。

Ⅱ　詩「永訣の朝」「アメニモマケズ」

妹トシ子と兄である作者との間にある「思い」とは、どのようなものだったのか？についてまとめる。（２時間）

Ⅲ　小説「舞姫」

豊太郎とエリスとがお互いを思う気持ちの変化を考える。（９時間）

① 主人公が最終的にとった選択について、同様の状況を設定し、「あなたならどうする？」と考えたことをグループやクラスで共有する。

② あらすじをまとめ、疑問点を出し合って問いの形にする。以下は、生徒から出た問いの例。

・豊太郎はいい奴？ダメな奴？友として付き合えるか？
・豊太郎はエリスのどこにひかれたのか？二人の恋の行方は？
・なぜ、豊太郎はあっさりと日本へ帰ったのか？なぜ、エリスは引き止めなかったのか？
・豊太郎に、なぜ相沢を憎む心が残ったのか？

③ クラスで立てた問いに対する自分の考えを持つために読む。下の写真は、グループで考える問いを立て、その答えを本文に即して報告しているクラスの様子。

④ ①と同じ問いに対する自分の今の考えをまとめる。

Ⅳ　パフォーマンス課題に取り組む。
（２時間）

パフォーマンス課題の評価

	2	1	0
Ⅰ「恕」について	「恕」の定義について、単元で出会った人物や作者の生き方や考えを入れて、自分の言葉でわかりやすく書くことができた。	「恕」の定義について、単元で出会った人物や作者の生き方や考えを入れて、仲間の力を借りながら書くことができた。	「論語」の「恕」の定義も述べられていない。
Ⅱ 自分の考えの変容	最初の自分の考えとの違いを根拠を挙げて説明できている。	最初の自分の考えとの違いをなんとなく説明できている。	自分の考えの違いや深まりを説明できない。
Ⅲ　宣言	Ⅰ・Ⅱをふまえて、「恕」の人としてどのように行動していくかが、具体的に述べられている。	Ⅰ・Ⅱとの関連は薄いが、「恕」の人として行動することが述べられている。	Ⅰ・Ⅱとの関連もない。

単元を通して身につけてほしいこと

よりよく生きるための問いを立て、その解決のヒントを文学作品に求めながら読み、そこで考えたことを、他者と合わせる楽しさを味わえる力を身に付けてほしいと考えています。そして、何が書かれてあるのかを根拠にして読み深め、「恕」、他者とのかかわりについて、自分はどのようにしていきたいのか今一度考え、実生活をよりよく生きていく力にしてほしいと願っています。

実践の背景

- 本校は、旧閑谷学校に受け継がれてきた儒学の精神を教育活動の柱にしている、来年度創学３５０年を迎える学校です。毎年、卒業式には「其れ、恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」と全員で朗誦して、生徒は学び舎を巣立っていきます。3 年間、「生きる指針」として親しんできた『論語』の中核的な思想である「恕」について、パフォーマンス課題に取り組むことを通じて、自分自身の言葉で考え、深めてもらいたいと願いこの単元を計画しました。

授業改善のアプローチ

- 高等学校の現代文の授業として文学教材と出会うことは、これが最後の機会となります。読み方としても、生徒自らが問いを持ち、その答えを明らかにしようと課題意識を持って読み進めることを意図しました。
- 「他者とどうかかわって生きるか」のように、生徒にとってより切実な問いを立て、その解決のヒントを得るために教材と出会わせるように単元を構成しています。本単元では、一つ一つの教材を読むにあたっても、同様の問いを立てて読み進められるようにしました。ですから、今回は、二・三学期を貫く大きな問いと、各教材を読むときにも、問いを立てて、常に生徒が教材を読む価値を意識できるようにしました。

生徒の変容～考える力～

「離れることができない仲」となったことについて、「あなたが、豊太郎、または、エリスだったら、どうするか」という問いに対して、初読では、多くの生徒が、同じ行動はとらない、と批判的に考えていました。ですが、取り巻く境遇や関係性から「仕方がなかった」「同じ行動をとるかもしれない」と考えが変わった生徒が３割強に増えていました。中には、二人の関係性の依存に注目して考える生徒も見られました。こうした様々な考えに揺れながら、自分の「恕」、愛を中心とした他者とのかかわりについての考えが深まっているようです。

評価

次の３点で２学期の評点としました。下の表は単元のルーブリックとして生徒に示したものです。
①パフォーマンス課題に対する評価（３０％）②一枚ポートフォリオによる評価（２０％）
③定期考査（単元ルーブリックの達成度を測ることを意識して作成）による評価（５０％）

	A	B	C
Ⅰ　関心・意欲・態度	学習課題を自分や実生活と結び付けて、取り組むことができている。	学習課題に熱心に取り組んではいるが、自分や実生活と結び付けが薄い。	学習課題に熱心に取り組むことができていない。
Ⅱ　聞く・話す	グループでの話し合いや作業を進める役割を取りながら参加できた。	グループで最低１回は発言をし、話し合いや作業に参加できた。	話し合いや作業に加わることができなかった。
Ⅲ　書く	本文から納得できる根拠を入れて、筋道を立てて自分の考えを書くことができる。	根拠を入れて、自分の考えを書くことができる。	自分の考えは書けたが、根拠がない。
Ⅳ　読む	複数の文章を比較して読み取ったことから語り手のものの見方や考え方から、「恕」についての自分の考えを述べることができている。	教材から読み取ったことを基に、「恕」について、自分のこととして考え、まとめている。	本文の内容はおおよそつかむことができてはいるが、自分の考えをまとめることができていない。
Ⅴ　知識・理解	主語と述語の関係に関する知識を十分に活用し、文意を把握できている。	主語と述語をとらえることで文意をだいたい把握できている。	文法的な知識と実際の文意を把握することが結びついていない。